

2025

9月



鷹栖町図書室に新しくいった本

(8月分より)

たかす(一般)

『紅色の幻』(あさのあつこ/PHP研究所)

『クロエとオオエ』(有川ひろ/講談社)

『一撃のお姫さま』(島本理生/文藝春秋)

『リグレティング・ユー』上下(コリンフーヴァー/二見書房)

『ヨルダンの本屋に住んでみた』(フウ/産業編集センター)

『この先の、稼ぎ方がわからない。』(門賀美央子/清流出版)

『犯罪者が目をつける「家」』(小宮信夫/青春出版社)

『株より空家』(山川優貴/幻冬舎)

『日本の映画の舞台&ロケ地100』(谷國大輔/学芸出版社)

たかす(児童)

『山の本、とどけ!』(キッチンミノル/テキサスブックセラーズ)

『3びきのねずみにじいおかし』(いしいみえ/Gakken)

『こうえんいこう』(植垣歩子/福音館書店)

『りりかさんのぬいぐるみ診療所』(かんのゆうこ/講談社)

『ふうせん』(セシル・ジュグラ/NHK出版)

『おかしのヒミツ研究所』(3時のおやつ科学機構/えほんの杜)

きたの(一般)

『麦本三歩の好きなもの』第三集(住野よる/幻冬舎)

『どうせ世界は終わるけど』(結城真一郎/小学館)

『ある翻訳家の取り憑かれた日常』2(村井理子/大和書房)

『韓国式ストーリーのつくりかた』(パクソンス/日経BP)

『考える機械たち』(インガ・ストルムケ/誠文堂新光社)

『男女の進学格差はなぜうまらないのか?』(中西祐子/岩波書店)

『ハーブ&スパイス事典』第3版(伊藤進吾 監修/誠文堂新光社)

きたの(児童)

『なつだね』(合田里美/岩崎書店)

『さくら前線急上昇!』(橋本あこ/文研出版)

『10歳からの"勉強"こうりゃく!』(清水章弘/小学館)

『細胞って何だろう?』(小林武彦 監修/PHP研究所)

☆新しくいった本は他にもございます。
図書室では新着図書のリストを配布して
おります。また、鷹栖町図書室の蔵書検
索から探すこともできます。



『ネバーランドの向こう側』(佐原ひかり/PHP研究所)

『チョコレート・ピース』(青山美智子/マガジンハウス)

『エレベーターのボタンを全部押さないでください』(川内有緒/ホーム社)

『トットあした』(黒柳徹子/新潮社)

『工房の季節』(ヨンソミン/講談社)

『今と未来がわかる農業』(堀田和彦 監修/ナツメ社)

『独断と偏見』(二宮和也/集英社)

『ペンギンたんけんたい さばくのかいぶつ』(高島純/講談社)

『きょうりゅうのおいしゃさん』(たしろちさと/小学館)

『ベッドにのってきょうりゅうのくにへ』(まつおかたつひで/童心社)

『トミカでかくれんぼ』(つむばば/講談社)

『運命を変えるチャンスはなぜか突然やって来る』(今村翔吾/岩波書店)

『ポケモン生態図鑑』(ポケモン/小学館)

『サイレントシンガー』(小川洋子/文藝春秋)

『アンスピリチュアル』(高野史緒/早川書房)

『心の鎧の下ろし方』(三砂ちづる/ミシマ社)

『ジェームズ』(パーシヴァル・エヴェレット/河出書房新社)

『SNS選挙という罠』(物江潤/平凡社)

『世界の子育てくらべてみたら、心がふわっとラクになった』(織田博子/WAVE出版)

『荒野に果実が実るまで』(田畑勇樹/集英社)

『おたすけこびととやんちゃなこいぬ』(コヨセジュンジ/徳間書店)

『恐竜トリケラトプスとマイプ』(黒川みつひろ/小峰書店)

『リセツルーム』(はやみねかおる/朝日新聞出版)

『こども戦争と平和』(小原雅博 監修/カンゼン)

『小学生のお菓子ブック』2(星野奈々子/家の光協会)

ほか

～鷹栖町図書室の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～

図書室だより



9月20日(土)は、鷹栖町図書室
ワークショップ「鷹栖百年地図を
作ろう!」を行います。皆さんの
記憶をもとに、地図に書き込ん
でいきます。ワイワイお話しな
がら楽しく懐かしい時間を過
しませんか?

定員15名。参加費は無料で、手
ぶらでおいでください。申込み
は直接図書室かお電話で!



8月の本棚リレーは
久保由加里さんでした。



8月の「音楽のある図書室」は
blancheさんによる
フルート三重奏でした。